

事務事業評価の評価結果について（平成28年度の事業に対する評価）

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
スポーツ振興課	一般事務事業	健康志向の高まりや余暇時間の増大などにより、より健康的で活力のある人生を送ろうという市民の問い合わせ、相談等に迅速で適切な窓口対応を実施します。併せて事務所の維持管理と事務環境の向上に努めます。	平成28年度予算額からの削減率	経常経費以外の一般事務費の削減率を目標とします。	0.1%	7.8%		メッセウイング・みえ会議室を使用せず、事務所内会議スペースの使用に努め削減に努めた。	3	事務の効率化により経費節減に努めていることと併せて、事務所内会議室の使用等によりメッセウイング・みえ会議室の使用料が支出されなかったことによる。	現状維持	効率的な窓口事務に努め、市民へのスポーツに関する情報提供を一層工夫すると共に事務管理経費の節減を図ります。また、経理事務について、適正な執行ができるように努める。
スポーツ振興課	スポーツ・レクリエーション振興事業	スポーツ・レクリエーション活動を通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的とした交流の機会づくりを推進します。また、スポーツ・レクリエーション活動の普及・振興のため、スポーツ教室の開催や各種団体への活動支援などに努めスポーツ・レクリエーション振興を図ります。	スポーツ・レクリエーション活動の振興の指標として、主要な大会等のイベントへの参加者数を定める。	スポーツ・レクリエーションの振興のため、各種取り組みを進めることで、市民が週に1日以上スポーツを行っている人の割合を増加させます。ただし、毎年数値の確認が出来ないため、補足的に主要なスポーツ大会、教室などのイベントの前年度参加者数を上回ることを指標とします。	16,579人	15,640人		スポーツ教室の開催日数の減、会場の変更（屋外から屋内）により、参加者数が減少しました。	3	本年度は、平成30年度全国高等学校総合体育大会、平成33年度第76回国民体育大会を視野に入れたスポーツ競技力の向上事業として、ロンドン五輪フェンシング団体銀メダリストの千田健太選手を指導者に迎え、市内小学生を対象とした「ステップアップスクールin津」を開催した。また、昨年度に続き吉田沙保里杯津市少年少女レスリング選手権大会を開催し、全国から昨年度を上回る参加者があった。また、津シティマラソン大会等の各種大会・教室、イベントの開催やスポーツ奨励の補助、各種団体への支援などを引き続き行い、多くの市民等のスポーツ・レクリエーション事業への参加がありました。	拡充・充実	市民のスポーツニーズに対応した多様なスポーツ・レクリエーションの場を引き続き開催する。また、平成29年度については、平成30年度全国高等学校総合体育大会、平成33年度第76回国民体育大会を視野に入れて、津市のスポーツ競技力の向上を目指して、スポーツ大会、教室等の事業を引き続き実施する。
スポーツ振興課	スポーツ推進委員関係事業	市民のスポーツ・レクリエーション活動促進のための実技指導や組織を育成するとともに、地域住民に対しスポーツ・レクリエーションに関する指導や助言を行い、本市における地域スポーツの推進を図ります。	委員個々の資質向上を図るための研修会の開催	地域のスポーツ振興の推進役である委員個々の資質向上を図るための研修を年間10回以上開催し、スキルアップにつなげる。	10回	15回		地域でのニュースポーツの普及等のため、委員個々が高い志を持って研修に参加し、スキルアップを図ることができた。	4		現状維持	委員それぞれが、各地域の実情を鑑みながら各種スポーツ事業に積極的に取り組むとともに、全体的なスポーツ事業の企画運営を行った。平成30年度全国高等学校総合体育大会、平成33年度第76回国民体育大会の開催が予定されており、全国規模の大きな大会運営の中核を担えるスキルを身につける必要がある。

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
スポーツ振興課	体育館管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 競技場を使用したバレーボール、バドミントン等の他、会議室を使用したエアロビクスや健康体操等、主に屋内スポーツの振興を図るものです。	運動施設利用者数	津市体育館の利用者数（平成24年度実績78,846人の1割増）。	78,846人	87,725人		平成27年度より大幅な増加となり、目標値に達しました。 引き続き利用者の増加を目指します。	4	バドミントン、卓球、バレーボールの一般公開の継続。 平成28年1月より通常の一般公開日に加え、特別公開日を月1～2日程度設け、定着してきたことにより利用者の増加に繋がった。	現状維持	昨年度より大幅な利用者の増加となった。津市産業・スポーツセンターへの機能移転に向け、引き続き指定管理者と連携し、利用者の増加に努める。 また、平成29年10月1日サオリーナオープンに伴い閉館する津市体育館について、指定管理者の事務所移転や備品の整理等を実施する。
スポーツ振興課	体育館管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 競技場を使用したバレーボール、バドミントン等の他、会議室を使用したエアロビクスや健康体操等、主に屋内スポーツの振興を図るものです。	運動施設利用者数	津市体育館の利用者数（平成24年度実績78,846人の1割増）。	78,846人	87,725人		平成27年度より大幅な増加となり、目標値に達しました。 引き続き利用者の増加を目指します。	4	バドミントン、卓球、バレーボールの一般公開の継続。 平成28年1月より通常の一般公開日に加え、特別公開日を月1～2日程度設け、定着してきたことにより利用者の増加に繋がった。	現状維持	昨年度より大幅な利用者の増加となった。引き続き指定管理者と連携し、利用者の増加に努める。 さらに、利用者に安心・安全かつ快適な施設環境が提供できるよう、市内運動施設の小破修繕、予定される計画的修繕に努める。 また、平成29年10月1日サオリーナオープンに伴い閉館する津市体育館について、指定管理者の事務所移転や備品の整理等を実施する。
スポーツ振興課	野球場管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 また、野球等の市民スポーツの振興とともに、高校野球等集客性の高い試合の誘致による、コミュニティの拡大、中心地域の活性化を図ります。	運動施設利用者数	津球場公園内野球場の利用者数（平成24年度実績26,365人の1割増）	26,350人	26,151人		平成27年度に対し利用者増となったが、目標未到達となったため、引き続き指定管理者との連携や施設の機能向上に努め、目標達成したい。	2	利用者が不便なく利用できるよう駐車場の整備やグラウンドの機能向上等に努める。	現状維持	利用者の増加に向け、大会やイベントの誘致、指定管理者との連携強化など改善が必要である。 平成33年度第76回国民体育大会での利用を視野に、津球場公園全体の整備計画を検討する。
スポーツ振興課	グラウンド管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 それぞれの施設の規模が小さいので大会等の開催はほとんどありませんが、軟式野球・ソフトボールを中心とした屋外スポーツの振興を図ります。	運動施設利用者数	津市北部運動広場、津市南部緑地公園内運動広場、津市乙部公園内運動広場、津市西部運動広場の利用者数（平成24年度実績12,591人の1割増）。	12,591人	14,907人		平成27年度に対し、利用者増となり、目標値を達成した。引き続き指定管理者と連携し、施設の維持管理に努める。	3	平成27年度に対し、利用者増となったが、グラウンドによっては駐車可能台数が少なく、利用するには不便である箇所や、経年劣化により施設状態が不良となっている箇所があるため、必要に応じた修繕等機能向上に努める。	現状維持	利用者が安全・安心に利用できるよう修繕が必要な箇所等については、指定管理者と連携し、積極的な修繕を行い引き続き利用者の増加に努める。

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
スポーツ振興課	テニスコート管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的とした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 硬式テニス・ソフトテニス共に個人の使用からスポーツ教室、市民大会等、幅広い目的で利用されており、今後も市民に身近なスポーツ施設となるよう維持・管理を行いスポーツの振興を図ります。	運動施設利用者数	津市古道公園内テニスコート、津市古河公園内テニスコート、津市入江公園内テニスコートの利用者数の合計。（平成24年度実績54,807人の1割増）	54,807人	47,336人		古道公園内テニスコートにて芝張替工事を実施するにあたり、約1ヶ月営業を停止したことによる減と思われる。	3	平成27年度に古道公園内テニスコート2面分の芝張替工事をを行い、平成28年度に残りの4面について、張替工事を実施した。古道公園内テニスコートについては、より良い施設環境を利用者に提供できると考えられるが、一部駐車場の不足等が懸念される。	現状維持	芝張替等工事を実施したが、駐車場の不足等以前、課題は残っているため、引き続き可能な限り整備に努め、利用率の向上を目指す。
スポーツ振興課	プール管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的とした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 近年のプールは水泳（競技）目的のみならず、水中ウォーキング等の健康づくりにも利用されており、水泳の振興、市民の健康増進を図ります。	運動施設利用者数	津市民プールの利用者数（平成23年度実績69,769人の1割増）。	71,000人	74,684人		平成27年度に対し、利用者数増となりました。引き続き指定管理者と連携し、施設の維持管理に努める。	3	利用者は増加となっているが、施設は老朽化が進んでいるため、引き続き産業・スポーツセンターへの機能移転に向け、利用者に対し、より良い施設環境の提供に努める。	現状維持	産業・スポーツセンターへの機能移転に向け、大規模な改修は避け、利用者の安心・安全に配慮し、必要に応じて指定管理者と連携し、修繕を行っていく。
スポーツ振興課	その他運動施設管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的とした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 海浜公園内陸上競技場は陸上競技場の他、市内で唯一の芝が張られたサッカー場もあり、大会等の誘致を図り、競技振興と交流の機会づくりを図ります。	運動施設利用者数	津市海浜公園内陸上競技場及びテニスコートの利用者数（平成24年度実績14,076人の1割増）。	16,836人	18,893人		平成27年度に引き続き指定管理者の自主事業等の努力により、増加し、目標値を達成した。引き続き指定管理者と連携し、施設の維持管理に努める。	4	目標は達成できているが、老朽化に対応できるよう引き続き指定管理と連携し、計画的な修繕に努める。	現状維持	利用率は徐々に向上しているが、施設については、老朽化が進んでいるため、引き続き必要に応じた整備等機能向上に努める。
産業・スポーツセンター推進室	産業・スポーツセンター整備事業	本市のスポーツ施設については、老朽化した小規模な施設が多く存在し、全国規模の大会等が開催可能で市民の健康増進やスポーツ等を通じた交流の拠点となる施設が少ない状況にあります。 そこで平成22年5月に「津市スポーツ施設整備基本構想」を策定し、地域の核となる施設の整備や、総合的なスポーツ施設として大規模大会等が開催可能な拠点となるスポーツ施設の整備方針をとりまとめています。この基本構想を踏まえ、平成23年9月に「津市屋内総合スポーツ施設基本計画」として、総合的な屋内スポーツ施設の整備に向け具体的な計画策定を行い、その計画に基づき平成29年10月1日の施設供用開始に向けて事業を推進するものです。	津市産業・スポーツセンターの工事進捗状況	津市産業・スポーツセンター建設工事の進捗状況	65.6%	87.1%		本体建設工事については、平成29年3月末現在の進捗状況は87.9%であり順調に進んでいる。	4	本体建設工事については、平成27年4月1日より着工し、順調に工事が進んでいる。また、緑地整備工事については、予定通り実施できた。さらに、三重武道館弓道場（遠的）新築工事等に係る地質調査及び設計業務を実施し、着工に向けた準備を進めた。	現状維持	平成29年10月1日の施設供用開始を目指して、本体建設工事、関連工事及び備品購入等を着実に推進する。

スポーツ文化振興部

評価：4=できている 3=概ねできている 2=課題克服が必要 1=未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
産業・スポーツセンター推進室	産業・スポーツセンター維持管理事業	津市産業・スポーツセンターの供用開始に向け、平成28年4月1日より新たな指定管理者による管理運営を行います。民間企業のノウハウや創意工夫に基づいた管理運営により、より質の高いサービスを利用者に提供することで利用者を確保するとともに、管理経費等の縮減を図ることを目的とします。 また、既存のメッセウイング・みえについては、現状を把握したうえで長期修繕計画に基づき修繕・点検等を実施し、利用環境の向上を図ります。	メッセウイング・みえの利用者数	平成28年度より新たな指定管理者により管理運営が行われる津市産業・スポーツセンター利用者数を目標と定め、その達成度を計る。	217,000人	164,474人		産業・スポーツセンターの建設工事の影響により、目標値を下回った。	3	指定管理業務により既存のメッセウイング・みえの管理運営及び平成29年10月1日の産業・スポーツセンター供用開始に向けた準備業務を進めることができた。また、メッセウイング・みえの空調設備の修繕・点検業務等を実施することで施設の長寿命化及び利用環境の向上を図ることができた。	拡充・充実	平成29年10月1日の施設供用開始に向けた準備業務を着実に推進する。また、Wi-Fi環境等を整備し、施設の利便性の向上を図る。 また、メッセウイング・みえについては、長期修繕計画等を基に、優先順位をつけ計画的な修繕を実施する。
産業・スポーツセンター推進室	産業・スポーツセンター誘致・PR事業	平成29年10月1日に施設供用開始予定である津市産業・スポーツセンターの施設のPRを行うとともに、各種スポーツ大会、産業振興及びオープニングセレモニーも含めたイベント等の事業誘致を行う。	オープニング期間における全国規模の大会等の誘致・開催	指定管理者と連携しながら津市産業・スポーツセンターで開催する全国規模のスポーツ大会、興行、産業振興事業等の誘致活動を進めます。	9事業	55事業		観戦型スポーツイベントが2、競技大会として全国規模の大会が14、県規模の大会が52、市規模の大会が44、その他コンベンションが7となり、合計125の大会の開催が見込まれている。	3	新たに供用開始となるサオリーナ及び三重武道館について、オープニング期間に係るスポーツ大会等の誘致やオープニングイベントへの出演交渉について円滑に進めることができた。また、各種広告媒体等を活用し、施設のPRを図ることができた。 休日の施設利用は、満足する結果となったが平日の利用促進を引き続き図っていく必要がある。	拡充・充実	指定管理者が主導となり、引き続き大会誘致、施設PRを推進するよう働きかける。オープニングイベントについては、指定管理者と連携し、来場者が興味・関心を持つような企画を練り上げ、円滑に運営できるよう事前準備を入念に進める。 また、平日における施設の利用促進を図るために、サオリーナ及び三重武道館については、指定管理者のノウハウを活かした自主事業等の実施や、メッセウイング・みえについては、商工観光部や関係団体等と連携し、新たな顧客の確保に努める。
国体・障害者スポーツ大会準備室	国民体育大会等準備事業	三重県において、平成33年度に開催される第76回国民体育大会及び第21回全国障害者スポーツ大会、並びに平成30年度に開催される全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に向けて、会場地市町としての準備を進める。	国体津市準備委員会の設立及び全国高校総体津市実行委員会の設立準備	国民体育大会の津市開催に向けた諸準備の中核組織となる準備委員会の設立開催は最重要課題である。さらに本年度三重県において設立された全国高校総体実行委員会を受けて平成29年度に津市としても実行委員会を設置する必要がある。これらの開催及び準備を指標として設定する。				・設立準備委員会開催に向けた発起人会の開催（8月頃） ・設立準備委員会開催（11月頃） ・準備委員会常任委員会の開催（2月頃） これらを国体開催に向けた準備業務として進めていく。 8月に国体津市準備委員会設立発起人会、11月に国体津市準備委員会設立総会及び第1回総会を開催した。また、1月には当初予定していた常任委員会の代わりに、県内で初となる全国障害者スポーツ大会津市準備委員会設立総会及び第1回総会を開催した。	4	各大会の先遣地視察を実施し、今後の事業推進の方向性、課題の解決に向けての情報収集に努めることができた。 さらに開催準備に万全を期すため、国体だけでなく、新たに追加された全国障害者スポーツ大会の準備委員会を設立するとともに、高校総体についても平成29年度の本市実行委員会設立に向けた準備を行った。	拡充・充実	平成33年度第76回国民体育大会及び第21回全国障害者スポーツ大会、並びに平成30年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の開催に向けて会場地としての準備を進めるため、引き続き開催に向けた準備を進めるため、情報収集を目的とした先遣地視察を実施する。 さらに開催準備に万全を期すため、全国高等学校総合体育大会津市実行委員会を設立するとともに、国体津市準備委員会常任委員会及び専門委員会を開催し、今後も開催に向けて計画的に業務を拡大していく。

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
文化振興課	津リージョンプラザ管理運営事業	津リージョンプラザは、文化芸術に係る拠点としての取組を進め、市民の文化、芸術の鑑賞や発表、練習の場として活用していただくことにより、市民の教育、文化等の向上を図ることを目的とします。	利用率	人件費を始め経費の削減を図り、利用者の利便性に供する施設を目指すとともに、利用率の向上に努めることとし、一つの目安となる3/4の施設利用率を目標とします。	75%	お城ホール： 平日 65.6% 土・日・休日 99.1% 全日 79.6% リハーサル室： 86.0% 展示施設： 平日 47.8% 土・日・休日 59.1% 全日 52.0% お城ホール・展示施設 全日 67.1%		計画的に修繕を実施することにより、安定的な運営が出来たことから利用率向上の目的は概ね達成できた。	3	施設的环境においては、津リージョンプラザ中長期修繕計画に基づき、効果的な修繕を行い施設の適切な利用環境維持を図った。 また、利用率について、お城ホールは文化事業が実施しやすい土日、休日に利用が集中し、平日の利用率が低い。 また、展示室は全体的に利用率が低いことから、利用率向上を図るためには、市民による新たな文化事業が実施できるよう、取組を進める必要がある。	拡充・充実	市民が利用しやすい施設にするために、施設の老朽箇所等については、必要な修繕を行い、適切な利用環境の維持に努めるとともに、展示室について使用範囲を見直し、展示以外の使用を認める等、津リージョンプラザお城ホール及び展示・会議施設に関する規則及び内規を改正することにより、平日のお城ホール及び展示室の利用率の向上を図り、市民の文化芸術に触れる機会が増加するよう努める。
文化振興課	文化振興事業	住民の誰もが文化に触れ、親しみ、互いに交流ができ、文化を生活やまちづくりに活かすことを目指し、文化芸術活動の充実及び歴史的資源の保存と活用に向けて、市民文化の振興、文化施設の活性化、文化財の保存・継承及び歴史的資源を活かしたまちづくりを目的とした各種事業を推進します。	参加者数	多くの来場者で賑わい、人と人の交流する機会が生まれる場所では、文化意識の高揚がさらに図られ、新たな文化意識も芽生えと考えられ、まちも活性化すると思われることから参加者数を指標にします。	63,850人	59,428人		一身田寺内町への来訪者数が安定しており、実績値の5割を占めている。また、市民文化祭・地域文化祭も安定した実績を記録しているが、美術展覧会の参観者数が、2,000人ほど減少したことや全体的な参加者数の減少が、実績値の低下に繋がった。	3	各文化事業について、年度により増減があるものの、安定した入場者数を得ている。 今後も文化・芸術に触れる機会、文化活動への参加の機会を確保するなど継続した市民の文化芸術活動支援が必要である。 また、文化創造事業として、文化ホールを拠点とした担い手育成については、具体的な取組を行う。	現状維持	市民の文化活動の場と機会の提供としての文化振興の基本施策であることから、ワークショップなど市民参加を促すなど内容の工夫とともに継続実施を行い、また、地域と連携した担い手育成やホール活用の試みとしての文化創造事業も実施し、検証を行う。

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
文化振興課	文化振興基金事業	豊かな文化を育み21世紀に躍動する美しい京都の実現をめざして、文化振興基金運用益を活用し市民や市民文化団体が育む活動を支援します。(文化振興計画(1)-②-8、-9)	文化事業への助成金の交付件数	より活発な地域の文化団体や個人の文化事業活動の促進が、図られることから、助成金の交付件数を目標値に設定しました。	10件	8件		申請数自体は目標値に達したが、審査の結果、事業内容が基金の目的に達しないと判断されたため、目標値を下回る実績となった。	3	助成件数も倍増しており、継続した市民の文化芸術活動の支援につながっているが、目標値の達成には至っていないため、基金を利用した事業補助制度のPRを強化する必要がある。 また、羽田朝子記念映画上映会では、邦画で日本語字幕が付いているバリアフリー対応の比較的新しい作品も選定しながら、懐かしい映画を含めた2本立ての映画会を市内文化ホール10か所を会場に開催し、より多くの鑑賞者を得ることができたことで、文化ホールを身近に感じていただき、市民が気軽に文化に触れる機会となり、文化の振興につなげることができた。	現状維持	津市文化振興基金活用事業をより多くの市民や文化団体の活動に利用いただけるよう、例年より募集期間や選考会議を早めることで、年度当初の文化イベントにも対応が可能になり、芸術活動及び文化活動を支援することができた。 今後は、支援件数自体の増加を図るため、当該事業のPRを強化することを検討していく。 羽田朝子記念映画上映会については、日本語字幕付きのバリアフリー映画の上映を行い、高齢者の方々から、セリフ、動作がわかりやすいと好評であったため引き続き継続していく。
文化振興課	ホール整備事業	久居駅周辺地区のまちづくりにおける久居東鷹跡町エリアでのまちづくりビジョンに基づき、文化ホールの整備を行います。	(仮称)津市久居ホールの建設に向けた準備項目の達成度	平成32年度の施設供用開始に向けた諸準備を進めていく過程で年度毎に準備項目を設けてその達成度を計る。			実施設計の作成、管理運営計画の作成、建設検討委員会及び管理運営検討委員会の開催、住民説明会の開催、駐車場用地確保に向けた委託	駐車場用地確保に向け、事業認定申請書を認定庁（三重県）に提出。 実施設計に向けた各種団体への聞き取りや建設検討委員会の開催。 管理運営計画策定に向け管理運営検討委員会の開催。	2	駐車場用地の取得に向けた事業認定申請の協議に時間を要したこと及び用地買収に遅れが生じたため、スケジュールに遅れが生じているが、用地買収に向け地権者の理解が得られ次第、速やかに施設の建築工事などに取り掛かる。	現状維持	駐車場用地確保に向けた用地交渉など、(仮称)津市久居ホール整備事業を速やかに進める。 また、管理運営計画策定に向けた調整や管理運営主体の検討、地域の活性化に向けた取組を行う。